

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 2023年 3月 1日 回収率91.6%

事業所名 こどもプラス宇都宮北教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11		動き回っても危なくないように物は置きっぱなしにしないよ	利用定員10名に対し、指導訓練室が40㎡以上確保出来ている
	2	職員の配置数は適切である	11		人員が多すぎて手が空いている時間もある。職員が見る子供の人数が多過ぎないように配慮していると思う。	配置数は十分満たしている。研修機会を確保しており、質の向上と人材育成に努めている。
	3	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11		広々とした遊びやすい空間になっている。毎日換気をしたり、手消毒を徹底している	新型コロナウイルスに対応している 空気清浄機を設置している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	1	毎月 会議を行い情報共有している。	職員一人ひとりが目標を立て、次年に反省することを予定している。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1	なるべく 要望にそえるように 出来る事はやっていると思う。 日々の連絡で保護者の意向を聞いたりしている。	保護者からの意見はスタッフ会議で取り上げ、業務改善へつなげている。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11			HPで公開している。
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		研修を定期的に受けている。 職員は毎月の研修に参加する機会がある。	研修機会を確保しており、資質の向上に、努めている。
適切な支援の提供	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11			更なる向上に努めている。
	9	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	3		標準化されたアセスメントツールを把握していないので、おそらく使用していない。ファイリングはされている。
	10	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	3		児発管を中心に、具体的な支援内容を設定している
	11	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11		毎月の会議でスタッフ間で、話し合っ確認している。	
	12	活動プログラムの立案をチームで行っている	11			常勤者のチームが立案している
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	2		利用者の障害特性によってはできることが限られてしまうため、日々工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9	2	子どもの特性や状況に応じて、個別支援計画を作成している。	利用者の障害特性によってはできることが限られてしまうため、日々工夫している。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	2		全員で打ち合わせを行うのは難しい場合があるため、職員同士で都度支援の確認を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11			送迎の関係や退勤時間が異なるため、打ち合わせは行っていないが、申し送りノートを活用活用して共有している。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		毎日、各利用者の個別支援記録を記入している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11			相談支援員等と連携し、保護者との面談も併せて、モニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携	20	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11			なるべく時間を設けて、情報共有を行っている。
	21	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11			なるべく時間を設けて、情報共有を行っている。
	22	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11			研修がある場合は受講している。
	23	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11		送迎時にその日の状況を伝えたり、LINEにて保護者にお伝えしている。	
	24	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	3		具体的にペアレント・トレーニングは行っていないが、必要に応じて、相談や助言をしている。
	25	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11			説明等を行う機会を設けていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	26	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11		連絡帳(ノート・LINE)等も活用し、相談を受けた際は丁寧に対応している。	
	27	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11		職員への聞き取りや、原因・状況を明確にし、再発防止や保護者への対応を迅速に行っている。	
	28	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11		毎月、プラス便りに運動内容や教室での様子等を発信している。	
	29	個人情報の取扱いに十分注意している	11		個人情報の扱いは十分注意している	
	30	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11		ジェスチャーを交えて、分かりやすいように伝えるようにしている。	
非常時等の対応	31	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11		マニュアル研修・資料の配布を行っている。	
	32	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11		年2回の避難訓練を行っている。	
	34	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11		ヒヤリハットの記入をし、全職員に周知するようにしている。	
	35	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11		職員間で指摘し合える環境作りに努めている。	積極的に研修に参加し事業所内研修を行っている。
	36	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11			事前に十分説明して、了解を得ている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。